

## 天声人語

「元が緩む。そんな話を募集して本にまとめたのが、糸井重里監修『言いまつがい』である。なかでも慣用句がくせ者で、らちのあかない会議の最中に誰かが叫ぶ。「これじゃ、うさぎごっこですよ!」▼いたちごつこと言うよりも、可愛らしい感じがしてくる。何が何だか分からぬことを「キツネに包まれたようだ」と間違えた話もほほえましい。さて国会で最近、「つい言い間違えた」との言葉を聞いた。口元は全く緩まない▼この発端は、安倍政権の覚えめでたい検察幹部の定年を無理に延ばしたことだ。検察庁法ではなく国家公務員法の規定を理由にしたが、「検察官には適用されない」という政府見解が過去にあることを野党が指摘。その見解は現在も続いていると人事院の局長が答弁した▼これでは安倍首相の言い分と矛盾してしまう。われ局長は、言い間違えたことにせざるをえなかつたのだろう。つじつまをあわせるかのように発言を修正する動きは、法相からも出た。新型肺炎の陰で、答弁がいつも以上にひどいことになっている▼今国会を慣用句で表せば「ウソの上塗り」か。一つのごまかしが別のごましを呼ぶ。そうまでして、強い捜査権限を持つ検察を手の内に収めたいのか▼糸井さんの本に、大笑いした後の言い間違いが出てくる。「はらわた煮えくりかえるほど、おかしい!」。それを使うなら「おなかがよじれる」でしょ。いや、この政権には、しつくり来るような。

2020・3・1